

札幌丘珠空港について

沿革

- ・昭和17年 旧陸軍が飛行場を設置
- ・昭和33年 札幌飛行場(札幌丘珠空港)となる
- ・昭和36年 公共用施設に指定。防衛省と国土交通省が所管する共用空港としての利用が開始される
- ・昭和42年 滑走路を1,000mから1,400mに延伸
- ・平成16年 滑走路を100m延伸

空港概要

名称	札幌飛行場(札幌丘珠空港)
面積	総面積 : 102.2ha
	国土交通省所管 : 12.6ha
	防衛省所管 : 89.6ha
滑走路	1,500m × 45m
駐機スポット	中型機用5・小型機用22
空港運用時間	7:30~20:30
設置管理者	防衛大臣

空港及び周辺状況



空港ターミナルビル

平成4年開業のターミナルビル内には、レストラン「丘珠キッチン」、売店「スカイショップ丘珠」、飛行機を撮影できる展望デッキ等があります。



ビル外観



丘珠キッチン



名物 丘珠カレー



スカイショップ丘珠

空港へのアクセス

JR札幌駅、地下鉄栄町駅・麻生駅からバスが出ているほか、敷地内に有料駐車場(367台)が整備されています。

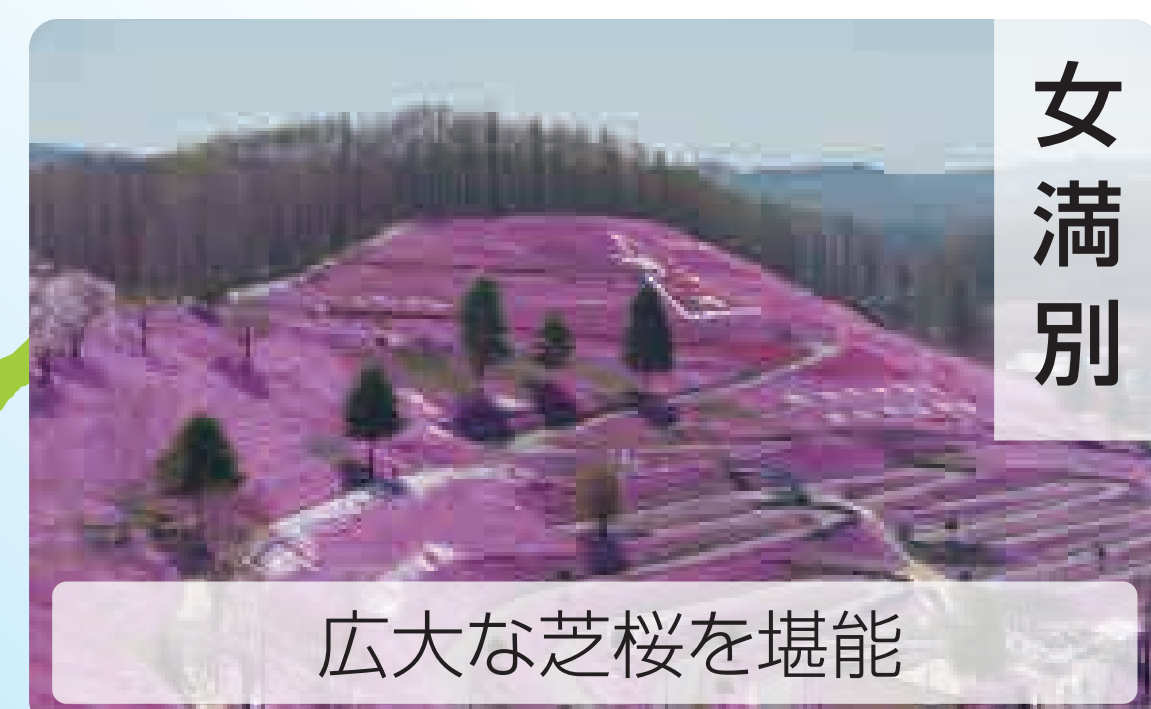


路線が増えてますます便利に

就航路線の紹介

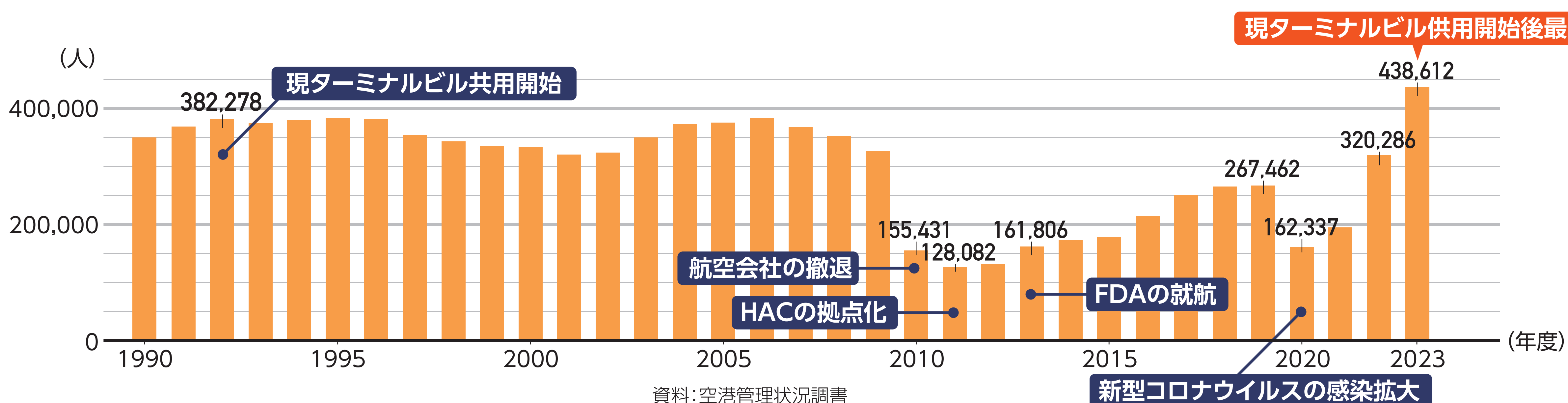
就航路線 令和7年1月時点

札幌丘珠空港では道内6路線、道外6路線が就航しています。



年間利用者数の推移

令和5年度の利用者数は、平成4年に現空港ターミナルビルが供用開始してから最多の438,612人となりました。



丘珠空港の将来像

(令和4年11月策定)



一年を通して道内外との路線を展開することにより、市民・道民の安全・安心な暮らしに寄与するとともに、多様な交流を支える広域交通拠点となる空港を目指します。

- ◆ 道内航空ネットワークの拠点空港として、医療・防災機能を高めるとともに、道内路線を維持拡大し、ビジネスや医療従事、通院等、社会生活にとって重要な路線として、市民・道民の利便性向上を図る。
- ◆ 一年を通して全国各地方との定期便の就航により、ビジネスや観光による交流人口を増やし、札幌・北海道の活力向上を図る。

空港と周辺地域の共生に関する基本方針

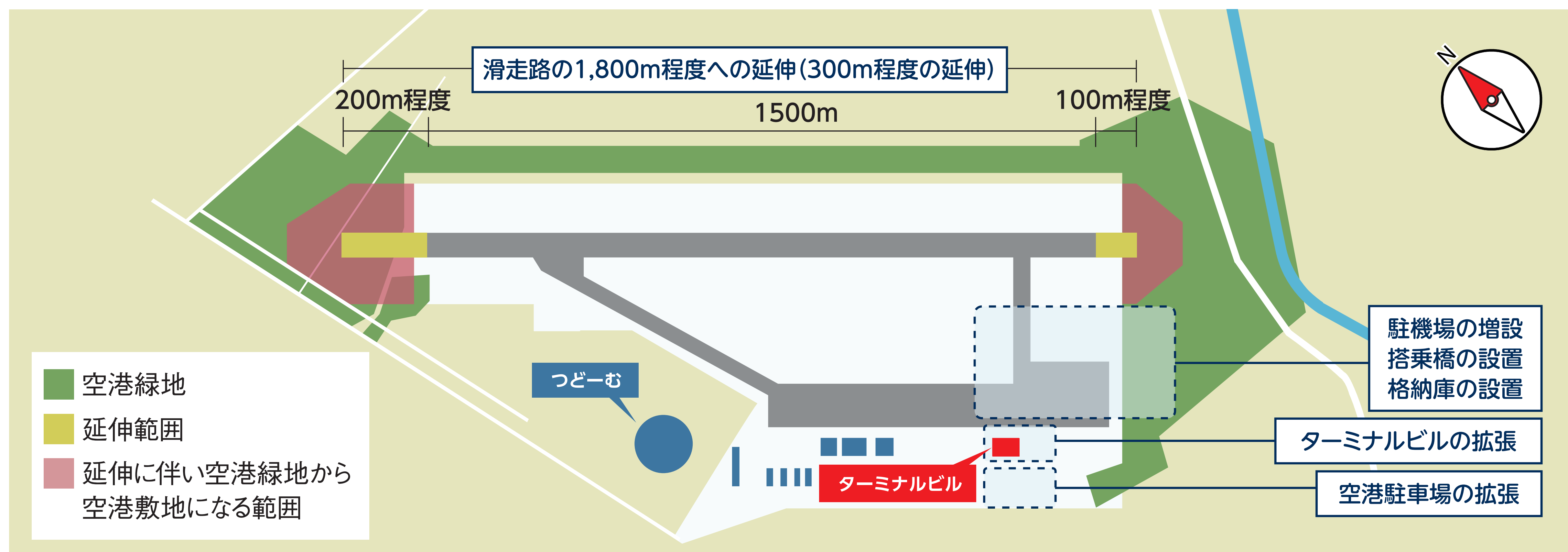
- ◆ 毎年騒音調査を行いながら、必要に応じて空港管理者や航空会社といった関係機関と協議・調整する等、運航便数等について環境基準を超えない範囲での運用となるよう取り組んでいく。
- ◆ 空港と周辺地域の共生を図るため、地域住民と協議しながら、空港周辺の賑わいの創出等に取り組んでいく。



将来像実現に必要な取組

① 滑走路の延伸

現在は夏ダイヤのみ就航しているリージョナルジェット機が冬季も運航し、一年を通して安定した空港利用が可能となる滑走路長(1,800m程度)とするため、300m程度の滑走路の延伸を国に要望しています。



※本イメージ図は将来像策定時点における札幌市の想定

【参考】想定スケジュール(札幌市が想定する最短スケジュール)

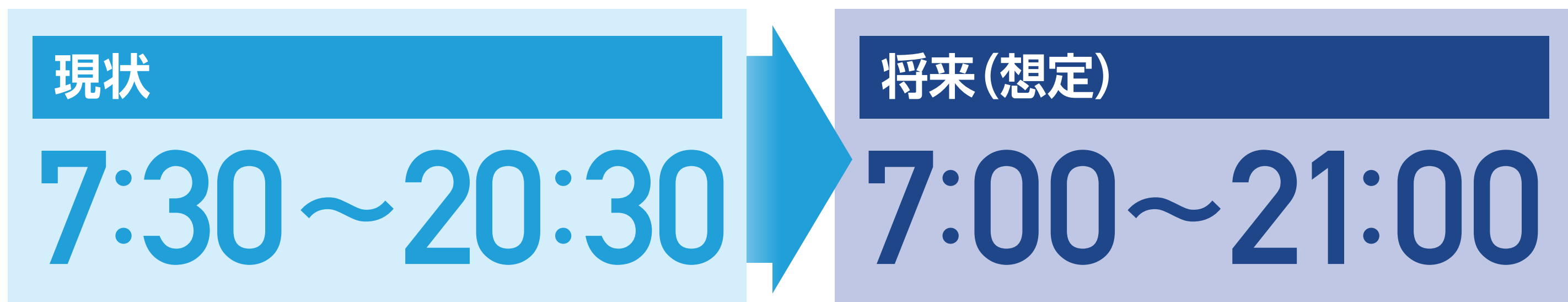


丘珠空港の将来像

将来像実現に必要な取組

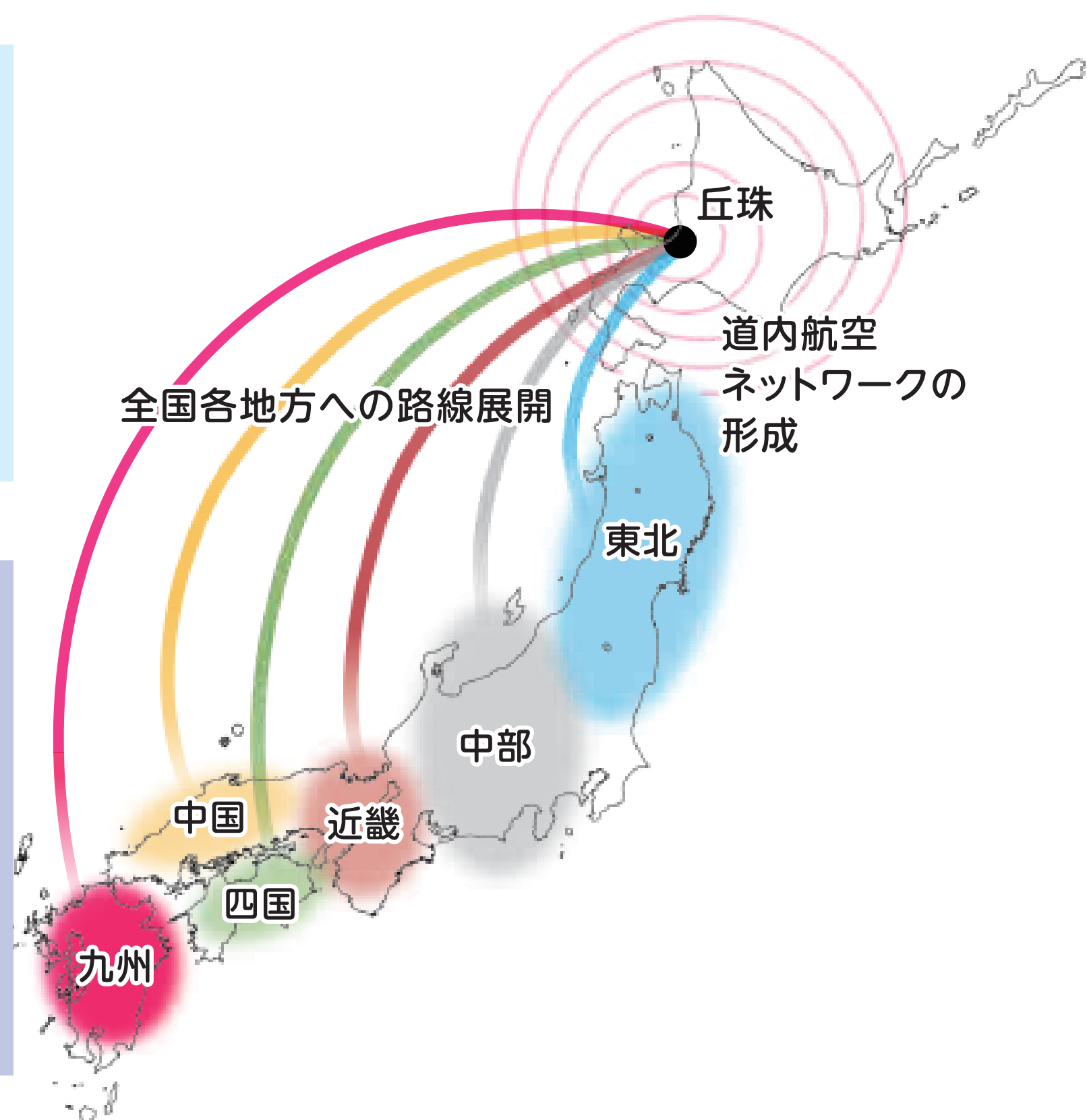
② 空港運用時間の拡大

ビジネス需要への対応及び北海道内外の移動機会の拡大等に向け、空港運用時間の1時間程度の拡大を国に要望していきます。



③ 路線の拡充

道外就航先地域と札幌市・北海道の交流人口を増やし活力を高めるため、道外の様々な地域の空港との間に路線を結ぶことを、航空会社や関係機関と連携し進めていきます。



路線展開のコンセプト

北海道との直行便が無い道外各地との路線就航により道内への集客に貢献するほか、新たな需要を創出し、札幌をはじめとした北海道の経済活性化につなげます。



④ ターミナル機能の強化

航空機の運航回数が増加すると、駐機する機材の数や旅客数が増加するため、ターミナル機能の強化が必要になります。

空港ターミナルビルの拡張

駐機場の増設

搭乗橋の設置

新たな事業者の格納庫の設置



⑤ 空港ターミナルビル内における商業施設等の拡充

航空旅客の利便性向上に加え、空港周辺地域住民を含めた市民にも利用してもらうことが可能な、また、空港ターミナルビルの安定した経営にもつながる商業施設等の拡充について検討を進めます。

⑥ 空港へのアクセスの充実

航空便の発着時間に対応したバス運行の確保や、都心部と丘珠空港を直接結ぶ空港連絡バスの通年運行化等、バスアクセスの充実を図るとともに、アクセス向上につながる取組について検討していきます。

⑦ 医療・防災機能の強化

丘珠空港が担う医療・防災機能を更に強化するため、主に以下の取組について、検討を進めます。

メディカルウイングの通年運用

札幌市消防航空隊の丘珠空港への拠点化及びSCU*が設置可能となる消防施設等の活用

災害時の支援物資等の集積及び搬送拠点として活用するための備蓄庫の設置

※SCU: 大震災等の災害時に、重篤患者の症状の安定化を図り搬送を実施するための航空機搬送拠点臨時医療施設。

⑧ 周辺地域との調和と共生

空港の機能強化の実現に伴い、空港と周辺地域の調和と共生が重要となってくるため、空港周辺地域の賑わいの創出や環境への配慮等について、地域の方と協議していきます。

「空港があって良かった」と感じられるまちを目指して

空港周辺のまちづくり

～空港整備や周辺まちづくりに関する市民意見等の把握～

「丘珠空港の将来像」に掲げた「空港と周辺地域の共生」を進めるため、
空港整備や周辺まちづくりについて市民や学識経験者と意見交換を行っています。

ここではその一部をご紹介します。

丘珠空港周辺地域連絡協議会

丘珠空港周辺の11連合町内会から、各地区の推薦者の方(計22名)にお集まりいただき、丘珠空港の将来像の実現に向けた取組や周辺まちづくりについて意見交換を行っています。

令和5年6月以降、これまで5回開催



地域ワークショップ

丘珠空港周辺の11連合町内会の区域内にお住まいの方を対象に公募でお集まりいただき、今後の空港整備や丘珠空港緑地の活用など、空港周辺地域のにぎわい創出に向けた取組をテーマにワークショップを行いました。

令和5年10月以降、計5回開催し、
延べ95名の市民の方にご参加いただきました



オープンハウス型意見交換会

チ・カ・ホや市内の商業施設など、誰でも気軽にお立ち寄りいただけるスペースに説明パネルを展示し、丘珠空港の将来像の実現に向けた取組を主テーマに、様々な方から幅広いご意見をいただいています。

令和5年11月に市内5会場で開催し、
約800名の市民の方にご来場いただきました



学識経験者からの意見聴取

空港周辺のまちづくりを検討する過程で、北海道大学の石井吉春教授(公共政策学)と北星学園大学の鈴木克典教授(都市計画学、交通計画学)から、専門的見地に基づくご意見をいただきました。



北海道大学
石井吉春教授



北星学園大学
鈴木克典教授

この他、地域アンケートや空港ニュースの配布などを通じて、意見把握に努めています。
今後も情報発信と意見の把握を継続していきます。

「空港があって良かった」と感じられるまちを目指して

空港周辺のまちづくり

～札幌丘珠空港と周辺地域の共生に関する基本構想の策定～

地域連絡協議会やワークショップ等でお寄せいただいたご意見を踏まえ、
空港と周辺地域の共生に向け、目指すまちづくりの姿や必要な取組を位置付ける
基本構想の策定に取り組んでいます。

目指す姿 ～空港があって良かったと感じられるまち～

一人でも多くの住民が「空港が近くにあって良かった」と感じられるまちになることを「空港と周辺地域の共生」と捉え、周辺まちづくりの目指す姿に位置付けます。

必要な取組

環境への配慮と安全運航の確保を前提としながら、空港ターミナルビルの機能拡充や丘珠空港緑地を活用した賑わいの創出、交通アクセスの改善などに取り組めます。



1 環境への配慮

- 航空機騒音の調査と丁寧な情報発信
- 丘珠空港緑地における騒音の緩衝機能の確保

2 安全運航の確保

- 安全運航の確保に向けた空港用地の拡張
(民間航空機と自衛隊機の)
(訓練の両立)

3 空港ターミナルビルの機能拡充

- 空港の基本機能の拡充
(保安検査場の拡充等)
- 航空機利用者以外の利用も見据えた商業機能等の拡充等

4 緑地機能の維持・向上

- 丘珠空港緑地の機能確保
(騒音・風雪の緩衝機能、)
(レクリエーション機能)
- 緑地を活用した賑わいの創出

5 空港周辺の産業振興・機能集積

- 企業立地の促進
- 空港周辺における産業・機能の集積
- 空港を活用した周辺地域の活性化

6 交通アクセスの改善

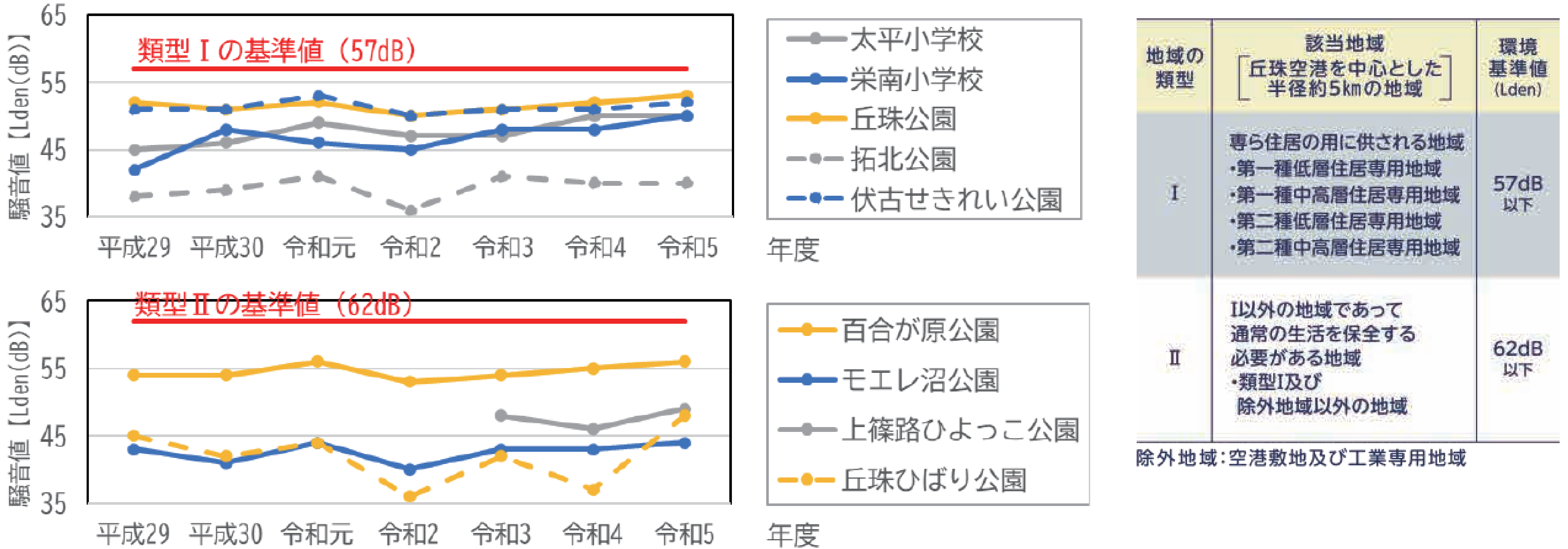
- 公共交通によるアクセスの改善
- 自家用車等によるアクセスの改善

環境への配慮

航空機騒音の調査

現在、丘珠空港を離発着する航空機や自衛隊機による騒音は、市の調査により国の騒音基準値以下となっていることが確認されています。今後も、国の騒音基準値の範囲内で運用されていることを確認していきます。

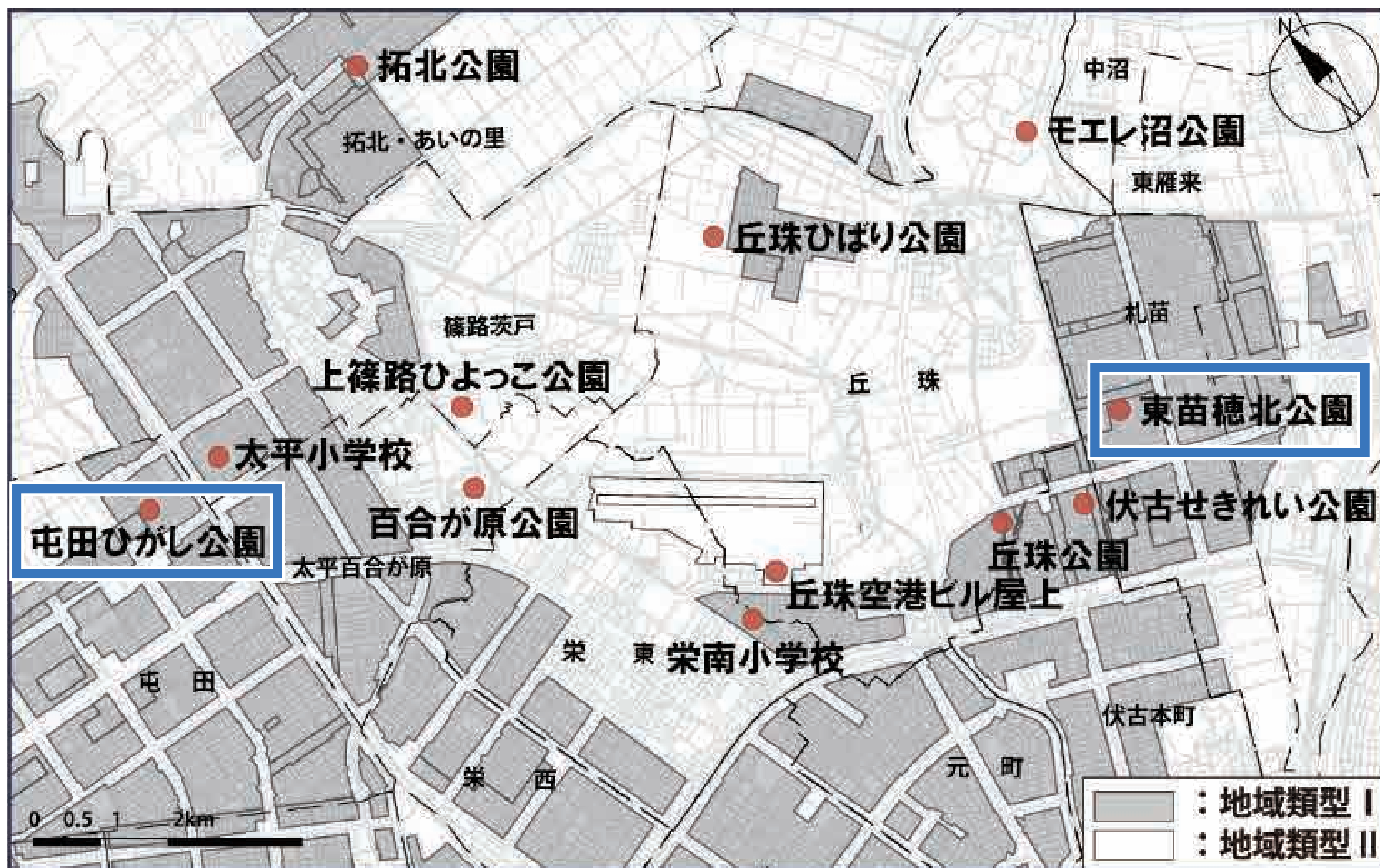
図：近年の航空機騒音調査結果



Lden：時間帯補正等価騒音レベルのことで、ある時間範囲について、変動する騒音レベルのエネルギー量の総和を評価した数値
※丘珠空港ビル屋上は環境基準の対象外なので記載していません。

- ◆令和4年度までは運航便数が最も多い夏期のみ騒音調査を行ってきましたが、令和5年度からは冬期の調査も加え、年に2回調査を行っています。
- ◆また令和6年度からは、これまで10地点であった調査地点を2地点増やし、丘珠空港周辺の12地点で騒音調査を実施しています。今後、12地点のうち2地点については、騒音の状況や地元意見を伺いながら調査地点を変えて運用していきます。

令和6年度航空機騒音調査地点



騒音調査状況

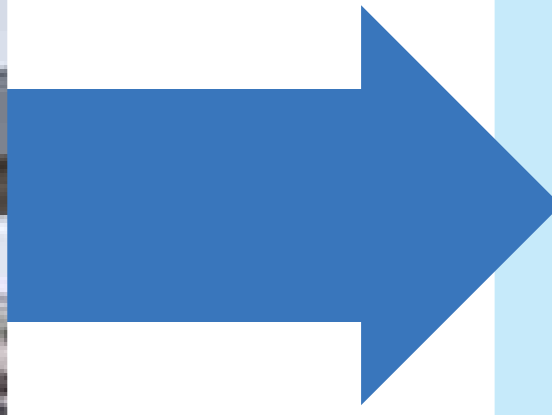


「空港があつて良かった」と感じられるまちを目指して

空港ターミナルビルの機能拡充

ターミナルビルを改修します

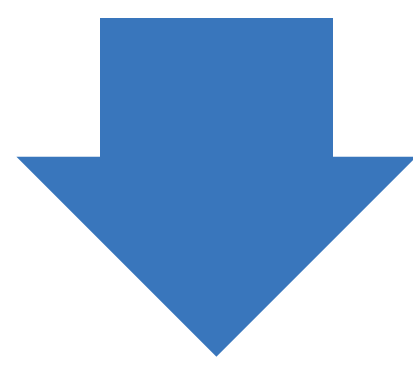
現在の空港ターミナルビル



現状の課題



- ・令和5年度の空港利用者数は約44万人となったが、施設規模が狭く混雑対策が必要な状態
- ・供用開始から30年以上経過による老朽化



これからの札幌丘珠空港の顔として、
空港ターミナルビルの所有者である
札幌丘珠空港ビル(株)と連携しながら
ビルの改修を検討しています。

改修後のイメージ

商業施設の拡充



開放的なロビー空間



バスやタクシーなどの 停車スペースの改良



ビジネスジェットの受入環境を整備します

ビジネスジェットの搭乗手続きや待ち合いに利用できる
ラウンジなどの整備を検討します

- ・ビジネスジェットを活用し海外富裕層を北海道・札幌に呼び込むことで、消費拡大による地域経済の活性化を図ります。
- ・国内外の起業家などが、ビジネスジェットでスムーズに移動できる環境をつくり、活発なビジネス交流を促進します。

待合ラウンジイメージ



「空港があって良かった」と感じられるまちを目指して

丘珠空港緑地の整備

～緑地を活用した賑わい創出と安全運航の確保～

丘珠空港緑地の機能

丘珠空港の周囲には、平成16年の滑走路延伸にあわせて整備された丘珠空港緑地があります。丘珠空港緑地は、樹林帯や築山により航空機の地上騒音や風を和らげる「緩衝機能」と、遊具や遊歩道などからなる「レクリエーション機能」を持つ都市緑地です。



樹林帯



遊具



遊歩道

想定している主な取組

丘珠空港緑地を活用した賑わい創出

滑走路の延伸に伴い減少する緑地の面積や形状を踏まえ、民間活力の導入も視野に、緑地の使用性向上や賑わい創出に必要な整備を行います【下図①】



賑わい創出検証イベント エアマルシェ

安心・安全な運航に向けた取組

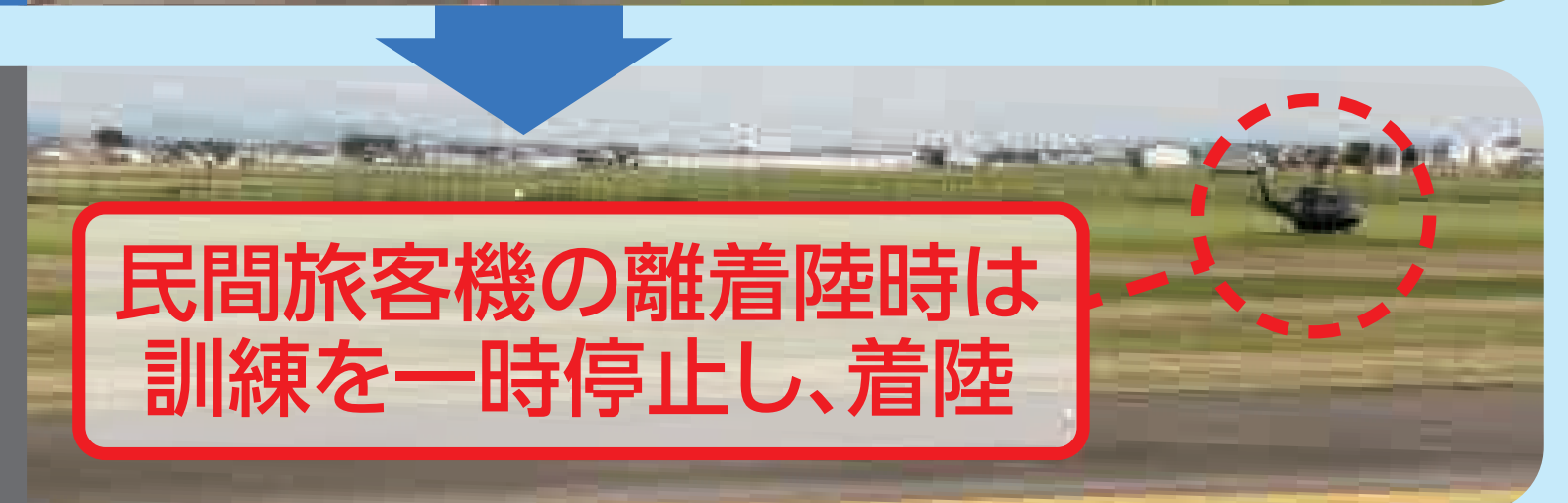
民間航空機の運航と自衛隊機の訓練の両立に向け、丘珠空港緑地の北東地区を活用した空港敷地の拡張を検討するとともに、緑地の代替機能の確保を検討します【下図②】

民間旅客機

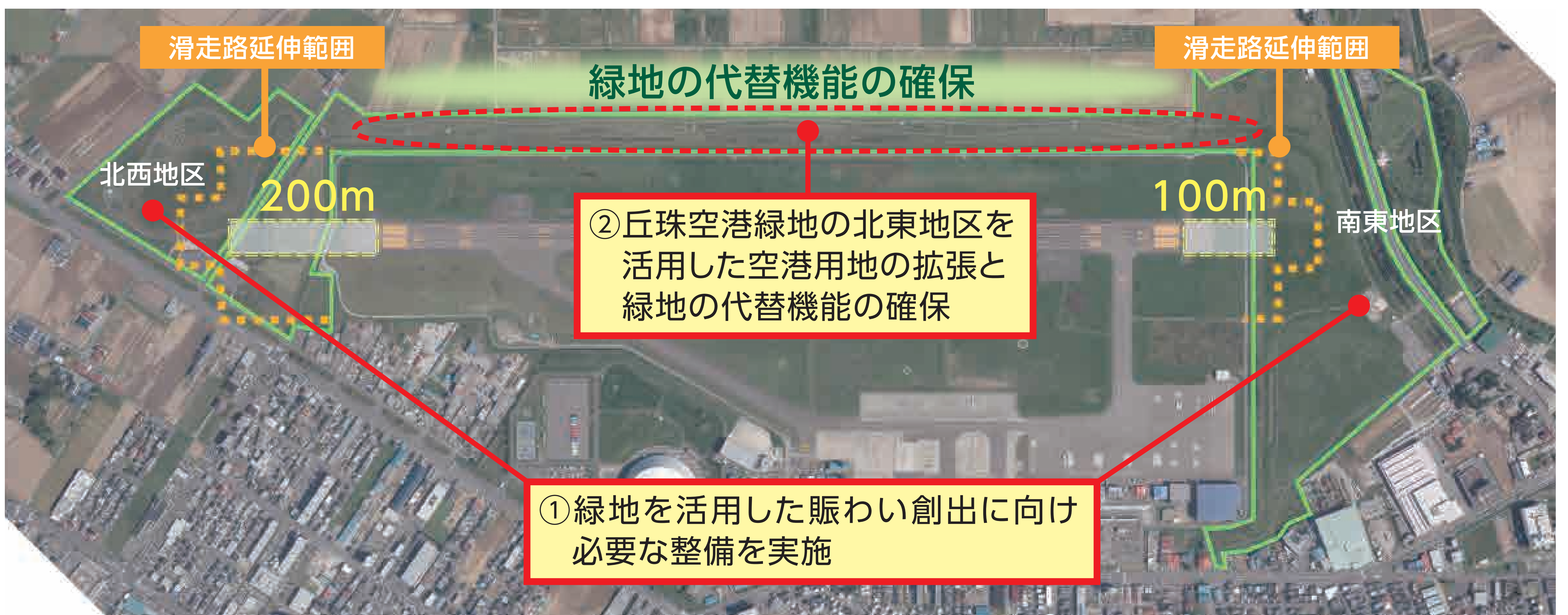


陸上自衛隊
所有機

民間旅客機の離着陸時は
訓練を一時停止し、着陸



緑地整備イメージ



※滑走路延伸範囲は札幌市想定であり、延伸の事業化は現状未定。

「空港があって良かった」と感じられるまちを目指して

交通アクセスの改善

交通アクセスの改善に向けた取組事例

札幌市では、公共交通機関の利用促進・利便性向上や、丘珠空港駐車場の混雑対策に取り組んでいます。

シャトルバス運行の実証実験

令和6年8月に地下鉄栄町駅と丘珠空港間に臨時のシャトルバスを運行し、夏期の混雑対策を行いました



栄町→空港の乗車人数が前月より6割増えました

臨時駐車場の開設

空港駐車場の混雑緩和のため、令和6年8月15日～10月14日に臨時駐車場を開設し、延べ1,000台以上の利用がありました



開設期間中、空港駐車場の満車時間が短縮されました

空港へのアクセス方法

空港へお越しの際は、**公共交通機関の利用**にご協力をお願いいたします。



空港連絡バス
札幌駅から※ **約30分**
栄町駅から **約5分**
※冬期間は札幌駅ではなく栄町駅発着となります

路線バス
麻生駅から **約20分**
栄町駅から **約5分**

徒歩
栄町駅から **約20分**



車・タクシー
札幌駅から **約20分**
伏古ICから **約5分**
札幌北ICから **約10分**